

平成 29 年度 研究成果報告書  
Research Achievement Report FY2017

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジアⅡ講座・准教授
氏名 Name	井上さゆり
専門分野 Academic Field	ビルマ音楽・ビルマ文学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	ビルマ古典歌謡における伝承と創作
<p>本研究の目的は、ビルマ古典歌謡における伝承と創作の過程を明らかにすることである。書承と口承で音楽が伝承される過程及び創作が為される過程を明らかにすることを目的とし、研究計画に従い以下の作業を行った。</p> <p>(1) 平成 26～29 年度科研費基盤 (C) の計画に従いビルマ古典歌謡の楽譜の整理を進めた。豎琴奏者故ウー・ミンマウンの手書き楽譜画像約 3000 枚の整理、データベース化を昨年に引き続き行い、この成果を 2017 年 7 月に国際学会 International Council for Traditional Music (於アイルランド、リムリック大学) において “Musical Notations in Burmese Classical Songs’ Oral Tradition: Harpist U Myint Maung’s Challenges in Transcribing Music” というタイトルで口頭発表を行った。2018 年 2 月には、2nd International Conference on Burma/Myanmar Studies (於ミャンマー、マンダレー大学) において “Musical Notations and Oral Tradition of Myanmar Classical Songs: Harpist U Myint Maung’s Notations and Their Transmission System” というタイトルで口頭発表を行った。</p> <p>(2) 国立民族学博物館共同研究「東南アジアのポピュラーカルチャー」の共同研究員として、報告者の研究テーマである「ビルマにおけるメディアと歌謡史」の研究を進め共著を執筆した。昨年度資料収集を行った 20 世紀以降の歌謡史とメディアに関する資料、特にビルマのレコード史の資料と調査に基づき、共著『東南アジアのポピュラーカルチャー：アイデンティティ・国家・グローバル化』（福岡まどか・福岡正太編、スタイルノート社、2018 年 3 月 26 日出版予定）において第 9 章「メディアから生まれるポピュラー音楽：ミャンマーの流行歌謡とレコード産業」を執筆した。その他、コラム 2 「テレビと悪行」、コラム 9 「ミャンマーの国立芸術学校と国立文化芸術大学」、コラム 18 「スマホは複数持ち」を執筆した。</p> <p>(3) 2017 年 8 月-9 月にミャンマー・マンダレー市において現地調査を実施し、古典歌謡及び近代歌謡の口頭伝承の実践について調査・記録を行った。報告者自身が豎琴演奏の口頭伝承による教授を受けながら、口唱歌で行われる伝承の理解を深め、口唱歌のシステムの記録を開始した。</p>	